

今夜7時

市民館 3階
毎週金曜日

みんなで つくろう

みんなの 会館

三人よれば 何とかの知恵

夜間学校

西成区萩之茶屋2-5-23
釜崎解放会館内 釜崎夜間学校
電話 632-4273

釜崎夜間学校

在日朝鮮人・韓国人の 指紋押す拒否 断固支持 定住外国人に市民権を

さて一月ももう終わるが...

オ一六回越冬闘争は

どう闘われたのかとして

一月も後一週間を残すだけになった。一月往ぬ。二月逃げる、三月去る。とはよく言ったものだと思ふ。

一月が終わる前に、オ一六回越冬闘争について話し合ってみたいと思ふ。

一九八五年一月二十五日から八六年一月十日まで、二二二と三年の例よりも五日間ほど期間は短くなって

いる。

十二月二十八日の夜から一月三日の夜までは、三角公園でも野営があらなわれていた。これは二年引き続きのこと。

医療センター軒下のフット敷きは例年どおりおこなわれた。しかし、フット敷きの時間は日によって変わる事が多く、アテにしている仲間から苦情も聞かれた。

三角公園での集会や市民館での学習会が終わってからフット敷き始めることになるので、いつもどおり八時からだと思つて列をつくって待っていた仲間たちにとっては腹立たしかった。

だろうと思ふ。たいがい、集会や学習会に合流するよりに呼びかけてはいたのだが...

三角公園での集会や市民館での学習会が終わってからフット敷き始めることになるので、いつもどおり八時からだと思つて列をつくって待っていた仲間たちにとっては腹立たしかった。

だろうと思ふ。たいがい、集会や学習会に合流するよりに呼びかけてはいたのだが...

オ一六回越冬闘争の最大の特長は仲間の参加が多かったこと。

フット敷きや警備に積極的に参加してくれる仲間が常時二十名ぐらいいた。それらの仲間は、共同炊事でメシを食べ、越冬が準備した部屋で寝る共同生活を越冬期間中おこなった。そして、越冬が終わっても十名程の仲間が、釜日弟に参加するようになった。

もう一つの特長は、大阪府警の越冬つぶしが口コツになつてきたことだ。

夜のあの大量の機動隊は何だったのが...

故山岡同志虐殺糾弾集会

釜日労山谷組遣団帰釜報告

―百名近くの仲間の熱気の中で―

先週(せんしゅう)の夜間(やかん)学校(がっこう)は釜日(かまひ)労争議(らうそうぎ)団(だん)の集会(しゅうかい)に合流(がっりゅう)した。

いつもの夜間(やかん)学校(がっこう)ならば、四(よ)五名(ご)でつましく話(わ)合(あ)つてい(い)るのだが、この日(ひ)は市民館(しみんくわん)の講(こう)堂(どう)一(いっ)ぱいの人(ひと)で、熱気(ねつき)があふれ(あ)っていた。

百名(ひゃく)近く(ちかく)の過半(かはん)は釜(かま)の仲間(ななかま)だ(だ)ったが、山谷(やまや)の山岡(やまおか)さん(さん)が殺(ころ)されたこと(こと)を新聞(しんぶん)、テレビ(テレビ)などで知(し)った主(ま)に越冬(えつとう)支援(しえん)に來(き)ていた(いた)学生(がくせい)、労働者(らうどうしゃ)も、かけつけ(かけつけ)てい(い)た(た)。

帰釜(かまへ)報告(ほうこく)をした(した)のは、一月(いちげつ)一(いつ)三日(さんびつ)朝(あ)六時(ろくじ)に山岡(やまおか)さん(さん)が射殺(しゃせつ)されたの(の)を知ら(し)られ(られ)、急遽(きゅうそん)、新幹(しんかん)線(せん)で山岡(やまおか)さん(さん)にかけつけ(かけつけ)た仲間(ななかま)の半数(はんすう)が十六日(じゅうろくにち)の山岡(やまおか)さん(さん)における山岡(やまおか)さん(さん)の労働者葬(らうどうしゃさう)に参加(さんか)した(した)後(のち)帰(かえ)つてきた(きた)仲間(ななかま)たち(たち)。

報告(ほうこく)によれば、佐藤(さとう)さん(さん)が殺(ころ)された時(とき)と同(おな)じく、警察(けいさつ)はもつぱら事情(じじょう)聴取(ちんしゆ)の名目(なめい)で山谷(やまや)争議(そうぎ)団(だん)内部(うちぶ)の情報(じょうほう)収集(しゆじゆ)を行(お)かない、右(みぎ)翼翼(よくよく)力団(りきだん)と手(て)を取り合(あ)つて、山(やま)谷(や)争議(そうぎ)団(だん)つぶ(つぶ)しを狙(ねら)つてい(い)ることを露呈(ろてい)して(して)いる(いう)という(いう)。

山岡(やまおか)さん(さん)の仲間(ななかま)はもろろん、専(せん)断(だん)で、そこ(そこ)で釜(かま)から多(おほ)くの仲間(ななかま)がか(か)けつけ(つけ)し、山谷(やまや)を暴力(ぼりき)支配(しはい)か(か)つた防衛(ぼうえい)する(する)ための体制(たいせい)を固(かた)める(める)一方(いつぱう)、当日(とうじつ)夜(よ)には山岡(やまおか)さん(さん)に對(たい)する白色(はくしやく)テロ(テロ)を怒(いか)る仲間(ななかま)の炎(ほのお)が山谷(やまや)の地(ち)で燃(も)えあ(あ)つた(つた)。

玉姫(たまひめ)公園(こうえん)で一六日(いちじゅうろくにち)にもたれた(た)労働者葬(らうどうしゃさう)には三百(さんひゃく)人(ひと)を超(こ)える仲(な)間(ま)が参加(さんか)した(した)。

山岡(やまおか)さん(さん)の仲間(ななかま)はもろろん、専(せん)断(だん)で、そこ(そこ)で釜(かま)から多(おほ)くの仲間(ななかま)がか(か)けつけ(つけ)し、山谷(やまや)を暴力(ぼりき)支配(しはい)か(か)つた防衛(ぼうえい)する(する)ための体制(たいせい)を固(かた)める(める)一方(いつぱう)、当日(とうじつ)夜(よ)には山岡(やまおか)さん(さん)に對(たい)する白色(はくしやく)テロ(テロ)を怒(いか)る仲間(ななかま)の炎(ほのお)が山谷(やまや)の地(ち)で燃(も)えあ(あ)つた(つた)。

釜ヶ崎越冬闘争報告

医療班(いりょうばん)による受診者(じゆしんしや) 三六〇名(さんぱくじゅうろくにん)

市更相(しきやう)での相談数(さうだんすう) 二二七名(にじゅうにせちやう)

うち、入院(にゅういん)四五名(にゅういんごご)、入寮(にゅうりやう)三四名(にゅうりやうさんじゅうご)、南邊(なんべん)六八名(ろくはち)、却下(きやくか)六三名(ろくさんめい)、不明(ふめい)一七名(いちじゅうしちやう)。

間(ま)が参列(さんれつ)し、白色(はくしやく)テロ(テロ)を指(さ)し、した金町(かみちやう)一家(いっか)解体(かいたい)報復(ほうふく)戦(せん)貫徹(くわつてい)を誓(ちか)つた(つた)。

市民館(しみんくわん)に集(あ)つた仲間(ななかま)も、報(ほう)告(こく)を聞(き)き、同(おな)じ日(ひ)雇(や)仲間(ななかま)の闘(たたか)い(い)に共感(きやうかん)を抱(かか)き、今(いま)後(ご)、山(やま)谷(や)の闘(たたか)い(い)を支(さ)える(える)こと(こと)を確(か)認(にん)した(した)。

吹(ふ)き出(だ)し班(ばん) パック弁(べん)当(とう) 三回(さんかい)一七〇個(いちじゅうななひゃく)

医療班(いりょうばん)の相談者(さうだんしや)用(よう)十七回(じゅうしちかい)五(ご)ハ。個(こ)。市(し)内(うち)医(い)療(りょう)パ(パ)ト(ト)ロ(ロ)一(いち)三(さん)回(かい)一(いち)七(しち)〇(じゅう)個(こ)。三(さん)角(かく)公(こう)園(えん)七(なな)回(かい)二(に)四(し)四(じゅう)個(こ)、汁(じゆ)八(はち)回(かい)。